

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第5部門第2区分

【発行日】平成20年1月24日(2008.1.24)

【公開番号】特開2007-211846(P2007-211846A)

【公開日】平成19年8月23日(2007.8.23)

【年通号数】公開・登録公報2007-032

【出願番号】特願2006-30822(P2006-30822)

【国際特許分類】

F 16 C 17/10 (2006.01)

H 02 K 7/08 (2006.01)

F 16 C 33/10 (2006.01)

H 02 K 5/16 (2006.01)

【F I】

F 16 C 17/10 A

H 02 K 7/08 A

F 16 C 33/10 Z

H 02 K 5/16 Z

【手続補正書】

【提出日】平成19年12月3日(2007.12.3)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

軸受体と、該軸受体と係合された軸支体と、該軸支体に下端を固着した動圧発生溝を有する中心軸とから構成される固定部と、

前記中心軸に回転自在に挿入されたスリーブと、該スリーブに係合されたスラスト軸受とから構成される回転部とを有し、

前記スラスト軸受は、前記軸受体と前記軸支体との間に挟持され、

前記中心軸と前記スリーブとの間にラジアル方向の動圧発生部を有し、前記スラスト軸受と前記軸支体及び軸受体との間にスラスト方向の動圧発生部を有し、かつ前記軸支体及び前記軸受体の両端に開口部を持つ流体軸受モータにおいて、

前記中心軸の上部に動圧発生溝を形成せず、かつその上部の中心軸とスリーブの間にオイル溜まりを形成し、前記スラスト軸受側の開口部に油溜まりを形成してなることを特徴とする流体軸受モータ。

【請求項2】

前記中心軸の上部と前記スリーブの上部により、毛細管現象による油導入部と一定間隔の隙間空間が形成されている、ことを特徴とする請求項1記載の流体軸受モータ。

【請求項3】

前記軸受体の油溜りの上方に、毛細管現象による油導入部と一定間隔の隙間空間が形成されている、ことを特徴とする請求項1記載の流体軸受モータ。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0016

【補正方法】変更

【補正の内容】

## 【 0 0 1 6 】

( 1 ) 軸受体と、該軸受体と係合された軸支体と、該軸支体に下端を固着した動圧発生溝を有する中心軸とから構成される固定部と、

前記中心軸に回転自在に挿入されたスリーブと、該スリーブに係合されたスラスト軸受とから構成される回転部とを有し、

前記スラスト軸受は、前記軸受体と前記軸支体との間に挟持され、

前記中心軸と前記スリーブとの間にラジアル方向の動圧発生部を有し、前記スラスト軸受と前記軸支体及び軸受体との間にスラスト方向の動圧発生部を有し、かつ前記軸支体及び前記軸受体の両端に開口部を持つ流体軸受モータにおいて、

前記中心軸の上部に動圧発生溝を形成せず、かつその上部の中心軸とスリーブの間にオイル溜まりを形成し、前記スラスト軸受側の開口部に油溜まりを形成してなることを特徴とする流体軸受モータ。